

JICA 開発大学院連携プログラム（各大学におけるプログラム）概要

大学名	早稲田大学
研究科名	アジア太平洋研究科
研究科の特色	http://www.waseda.jp/gsaps/ (2019 年 12 月 9 日まで) https://www.waseda.jp/fire/gsaps/ (2019 年 12 月 10 日から)
プログラム概要	明治維新以来 150 年の日本の成長と開発の歴史を、成功と失敗との両面からバランスよく、かつ魅力あるプログラムとして途上国の留学生に提供し、留学生がこうした日本の成功と失敗の経験を歴史・文化の大きく異なる自らの出身国の開発政策に適用する能力を養成する。
「日本の開発経験に関する講義」の概要	●日本の国際協力の経験(必修科目) 被援助国から援助国へと発展した日本が、これまでどのような開発協力を政策的に策定し、実施してきたかを理解し、留学生が出身国の開発政策に適応する条件や要因を自ら考案する実践的な能力の養成を目指す。日本は第二次世界大戦後被援助国として国際社会への復帰を果たした。そして 1954 年のコロンボプランへの参加を契機に被援助国から援助国へと発展し、60 年をこえる国際協力(特に開発援助)の経験を積み重ねてきた。この講義科目では、日本の国際協力史における多岐にわたる実績をミレニアム開発目標 (MDGs) への貢献の観点から振り返り、今後「誰も置き去りにしない—Leave No One Behind (LNOB)」の理念のもと、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けて、日本がいかに被援助国の目標達成に対する取り組みをサポートできるかについても検討する。 「担当教員」 勝間靖教授他(オムニバス) 「開講時期」 秋クォーター 「単位数」 2 単位 ●国際社会における日本の発展の経験(必修科目) 国際社会のなかにおける日本という視点から、日本の発展の経験を振り返り、その教訓を理解することを目標とする。明治以来の日本の成長は、殖産興業政策を含め、欧米諸国やアジア諸国などとの国際関係のなかで、競争や協調、ときには緊張のなかで展開してきた。また、第二次大戦後の戦後復興と高度経済成長期から現在に至るプロセスは、日本の国内的な要因だけでなく、政治・経済・社会のさまざまな面にわたる国際関係要因との相互関係のなかで展開してきた。この講義科目では、明治以降の日本の近代化の歴史や第二次大戦後の日本の経済大国としての成功や失敗を、国内的視点だけでなく、国際関係の視点を含めて理解する。 「担当教員」 黒田一雄教授他(オムニバス) 「開講時期」 春クォーター 「単位数」 2 単位 「開講時期」 春クォーター 「単位数」 2 単位

関連 URL	Web シラバス : https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php
プログラムの魅力紹介	多様なバックグラウンドを持った方々が参加 ・ 受験者へのメッセージ アジア太平洋研究科では、アジアがもつ多様性や潜在性、さらには抱える諸課題に対して、伝統的な学問の領域を超えて、総合的学際的に教育・研究を行うことを目指し、そのための体制の構築に努めてまいりました。単に課題の解決を志向するだけでなく、新しい価値の創造に向けた学術的貢献をめざしております。各分野の第一線で活躍する教員が、学生の学問的興味を尊重したうえで、それを研究成果として結実させるまでのプロセスをともに作り上げる努力を続けてきました。 われわれはこの 20 年の実績に満足しているわけではありません。すでに、次の 10 年に向け、国内外の大学、諸機関との連携を促進するなど、さらなる教育・研究の充実に取り組んでいます。国内外の研究者と協働を進め、同時に多様なバックグラウンドを持つ学生の皆さんと意思を統一して地道に努力を続け、アジア太平洋地域に関する研究・教育のプラットフォームを形成することを目指しています。 アジア太平洋研究科の国際的なコミュニティは、留学生にとって居心地が良いばかりではなく、日本人学生にとっても、日本に居ながらにして、毎日が国際交流の場となっています。また、セメスター留学の機会を利用して、自身の能力をさらに高めることもできます。ここでの経験は、将来、国際的に活躍するためにおおいに役立つことでしょう。 皆さんが、アジア太平洋研究科における学修・研究を通じて分析能力を養い、アジア太平洋地域および地球規模での課題の解決および価値の創造に向けて貢献できる高度人材となることを期待しています。